

学校教育目標

自主・自律



学校通信 3月号

令和8年3月3日

あざみ野だより

横浜市立あざみ野中学校

発行責任者 校長 我妻 智之



大きな石を

校長 我妻 智之

この時期になると、私はよく一つのエピソードを思い出します。

ある大学の哲学の授業の冒頭、先生が学生たちの前に大きな壺を置き、そこに石を詰めていく話です。壺いっぱいに見えるほど石を入れたあと、

「この壺は満杯か」と学生たちに尋ねました。

誰もが満杯だと答えると、その先生は教壇の下からバケツいっぱいの砂利（じやり）をとり出して壺の中に流し込み、壺を振りながら、大きな石と石の間を砂利で埋めていったのです。そしてもう一度

「この壺は満杯か？」と聞きました。

学生はすぐには答えられません。一人の学生が「多分違う。」と言いました。先生は「そうだね」と笑い、今度は教壇の下から細かい砂が入ったバケツを取り出し、それを大きな石と砂利の隙間に流し込みました。

「この壺はこれでいっぱいになったかな？」と三度目の問いに対して、学生はみんな「いや。」と答えます。先生は「そうだ！」と言い、水差しを取り出して壺の縁までなみなみと水を注ぎました。すべてのものが壺に収まった後、最後の質問を投げかけます。

「僕が何を言いたいのかわかるだろうか。」

一人の学生が手を挙げてこう答えました。

「どんなにスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いくらでも予定を詰め込む事は可能だということです。」と。

先生は「いや、重要なポイントはそこではないんだよ。大切なのは順番だ！大きな石を先に入れないかぎり、それが入る余地はその後二度とないという事なんだ」と言い、

「君たちの人生にとって”大きな石”とは何だろう。」と問いかけました。

「それは、自分の夢であったり、愛する人であったり、家庭であったり、ここで言う”大きな石”とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと君たちはそれを永遠に失う事になる。」

「もし君たちが小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしてしまえば、君たちの人生は、重要でない何かに満たされたものになってしまうだろう。そして大きな石、つまり自分にとって一番大事なものはもう入らなくなる。そのことを忘れずにいてほしい。」と先生は語りました。



「大切なことから順に入れていけば、壺には自分にとって大切なものがたくさん入る。逆に、小さなことでいっぱいにしてしまうと、あとで本当に大切なものを入れる隙間がなくなってしまう」という教えは、これから先もたくさんのことを学ばなければならない生徒の皆さんにとって、とても重要な意味があると思います。

勉強、遊び、友人関係、優しさ、好奇心、挑戦したいこと、休息…皆さんの毎日は、入れるべき「大きな石」であふれています。その中で、何を優先するのかは、一人ひとり違って構いません。ただ、自分にとって大切なことを見失わず、大事なものから丁寧に積み重ねる姿勢を、ずっと忘れないでほしいと思います。生徒の皆さん！（特に卒業する3年生の皆さん！）、生きていくうえで、できるだけ早く自分の中に定着させないといけないものを見つけて大事にしましょうね。重要なのは順番です！

そして、私たち教職員も、子どもたちが「大切なもので満たされる」ように、日々の教育活動をしっかりと進めてまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

「令和7年度あざみ野中学校地域防災訓練」が実施されました

令和8年1月25日（日）

「あざみ野自治会」「あざみ野東自治会」「イディオスあざみ野自治会」の皆さんが集まり、体育館・グラウンドにて、地域防災訓練が行われました。

訓練には、本校からも数名の生徒が有志として参加させていただきました。避難所開設準備や通信・電源・給水の確保、はまっこトイレや炊き出し用のガスかまど設置など、さまざまな作業が地域の方たちの力で運営される姿から、生徒たちも思うところがあったと思います。大変お世話になりました。3年ぶりに天気にも恵まれ、予定していたプログラムはすべて実施でき、実際に災害が起きた場面を想定した訓練になったと思います。

中学校でも年間を通して避難訓練や防災教育を行っています。来年度も、小中学校合同での総合防災引き取り訓練が、5月1日（金）に予定されておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。



《スクールカウンセラー》

本校のスクールカウンセラーは原則として、坂田先生が水曜日、水野先生が金曜日に来校します。

※相談は予約制です。

- ①担任の先生や部活の先生、学年の先生など、話しやすい先生に「スクールカウンセラーと話したい」と伝えて申し込む。
- ②『ひだまりルーム』（1階 図書室前）の入口にある“スクールカウンセラー相談申込書”を記入し、相談ポストに投函して申し込む。
- ③保護者から学校に電話をしてもらい申し込みする。学校Telもしくは『ひだまりルーム直通』の電話でご予約ください。

◆ひだまりルーム直通電話 902-5180（水曜・金曜のみ）

令和7年度 第44回卒業証書授与式

《 令和8年3月11日（水）本校体育館 》

- 卒業生入場 9：25（予定）
- 保護者様の入場につきましては、各家庭2名までとさせていただきます。



♪ 歌声よ 響け ♪

卒業生は『旅立ちの日に』そして『予感』を歌います

3月11日（水）の卒業証書授与式では、卒業生たちが思いを込めてたくさんの歌声を披露してくれます。国歌、校歌に加えて2曲歌う形になっており、今年度は『旅立ちの日に』と『予感』を歌うことになりました。素敵な歌を選んでくれた3年生に感謝です。

『旅立ちの日に』は「歌声の響く学校」にすることを目指していた秩父市の中学校の校長先生が今から30年前に、自ら作詞し、音楽科の先生により作曲された曲だということです。

勇気を翼にこめて 希望の風にのり この広い大空に 夢をたくして /
いま、別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力信じて このひろい このひろい
大空へ

卒業生一人ひとりが、これから自分の道を歩いて行こうと決意する歌です。その強い意志を感じることができる歌になっています。

一方、『予感』は、昨年10月の合唱コンクールで「学年合唱」として大和のシリウスにおいて3年生全員で歌声を響かせた曲です。作詞者の片岡輝さんは、この歌詞をある人の偉業を念頭において書いたと言っています。その人とは「遠山正瑛」さんという農学者で、中国のクブチ砂漠の緑化運動に取り組んだ方です。ちなみにクブチ砂漠とは北京に最も近いところに位置する砂漠で、大きさは日本の四国ほどです。以前は草原が広がっていた地域でしたが、長引く戦乱により清朝末期には砂漠化が進んでしまっていたそうです。

人の手によって砂漠と化したこの土地を再び甦らせるプロジェクトに遠山さんが関わったのが、85歳のとき。これまで他の地域での緑化に成功してきた遠山さんの最大の挑戦でした。そこで、彼は砂漠の地下に水が含まれる層があることを発見し、まず深く根を伸ばす植物を植えることから始めます。この取組は彼の没後も引き継がれ、2001年までに300万本！！のポプラの樹が植えられました。「環境」をテーマに作られたこの歌は、今の社会が抱える問題に向き合っていると云えますが、それと同時に、どんな状況であっても心の中に「夢」や「希望」をもって生きていってほしいというメッセージが伝わってくる曲だと思います。



心まで 干涸びさせては いけない
若くしなやかな力を 失ってはいけない
明日は 私たちの 手の中にあるのだから

《教科・部活動等の記録》

【美術科】横浜市立学校総合文化祭 中学校美術作品展

3年 6名
2年 7名
1年 6名

【国語科】第75回 社会を明るくする運動作文コンテスト
青葉区優秀作品 中学生の部 3年生

青葉区中学校書き初め展

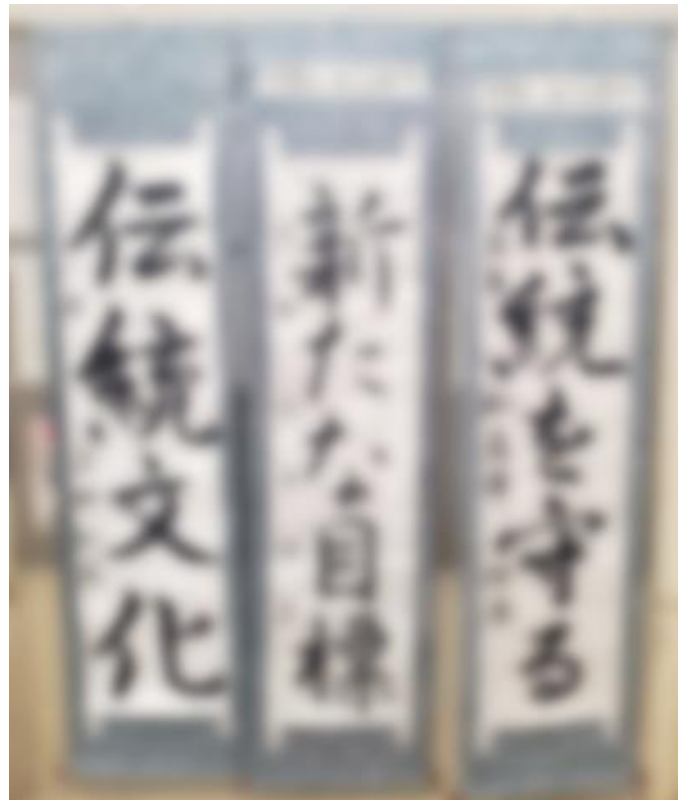
3年生

横浜市学校総合文化祭 中学校書写展

2年生

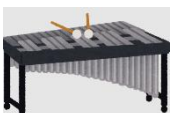
1年生優秀作品

1年生



吹奏楽部 定期演奏会のお知らせ

令和8年3月27日（金）開場 13:00 開演 13:30
場所 緑公会堂（JR・地下鉄中山駅から徒歩5分）
（入場券は不要です）



※3年生最後の演奏会です。ぜひご来場ください
♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

